

作品介绍——《小松宮御渡欧写真 各国市街及風俗写真帖》 —写真と史料から見る明治三十五年小松宮彰仁親王の御外遊

芳澤 直之

はじめに

当館所蔵の写真資料群には、外国で撮影もしくは収集された風景写真が多数含まれている（註1）。本稿では、そのうち、明治三十五年（一九〇二）における小松宮彰仁親王の英国御訪問の行程で撮影された《小松宮御渡欧写真 各国市街及風俗写真帖》を紹介する。明治三十五年二月一日、同年六月二十六日に挙行されるエドワード七世（Edward VII）の戴冠式に、小松宮が差遣されることに決定した（註2）。明治天皇の名代という大任を背負った小松宮は、欧州各国を巡られ、君主をはじめ、王族などに勲章を授与された（註3）。本写真帖は小松宮をはじめとする使節団一行の旅の記録である（註4）。

さらに、本写真帖の関連史料として、「英皇戴冠式参列旅行日誌」（宮内庁宮内公文書館所蔵。以下、「日誌」と略す）（註5）が作成されており、その記述から、被写体の多くは比定が可能である。そこで、本稿では「日誌」の記述と照合せながら、本写真帖の収録写真の撮影者や撮影地を推定し、全体的な構成を紹介していきたい。

なお、山括弧〈 〉内に記した番号は、（表1）の写真番号に対応する。あわせて、（表2）の行程表や地図も参照されたい。また、地名や人名を除き、旧字および異字体は新字に改めた。

小松宮彰仁親王は弘化三年（一八四六）正月十六日、伏見宮邦家親王の第八皇子として誕生した。嘉永元年（一八四八）四月五日に仁孝天皇の養子となり、安政五年（一八五八）三月に嘉彰を賜名され、親王宣下を受けた。同年九月に仁和寺に入寺得度し、名を純仁と改めた。明治維新後は再び親王に還俗され、軍事総裁や外国事務総裁などを歴任された。明治十九年（一八八六）に軍事視察のため欧州に差遣され、同二十年にはヴィクトリア女王（Victoria）即位五十周年祭に参列した。同二十三年に陸軍大将、同三十一年には元帥府に列せられた。同三十五年のエドワード七世戴冠式への参列が小松宮の最後の外遊となり、翌三十六年一月三十一日に薨去された（註6）。

一、作品概要

本写真帖は、「小松宮御渡欧写真 各国市街及風俗写真帖」と箱蓋に墨書された専用の木箱に収められている。写真帖の寸法は、縦二九・〇×横三七・〇×高さ三・五cm。装丁は、表紙が金欄による鳳凰唐草文様の裂地装折帖で天・地の小口に金付けが施されている。各写真の右肩に墨書された題箋が貼付されている。

写真は、シンガポール四枚、スエズ運河一枚、イタリア九枚、モナコ一枚、フランス八枚、イギリス十九枚、スペイン五枚、オーストリア七枚、スイス十四枚、ベルギー六枚、ドイツ二枚、デンマーク四枚、スウェーデン七枚、ロシア五十三枚、中国十四枚、神戸四枚、計一五八枚である。写真は、POP（ロジオン焼出し紙）印画

【参考】「英国皇帝戴冠式参列御名代及随行員」
（『太陽』8巻3号、1902年、国立国会図書館所蔵）

上段左より、稲葉正縄、中山孝麿、小松宮彰仁親王、三宮義胤、寺内正毅
（のちに井上良智、柴五郎に交代）

下段左より、丹羽龍之助、五十君弘太郎、黒澤源三郎、長崎省吾、土肥慶蔵

紙による焼付、サイズは五・五×八・〇cmが中心であるが、パノラマ写真も含まれる。写真師が随行した形跡はなく、写真は複数の随行員が撮影したと考えられる(註7)。また、スウェーデン、デンマーク、オーストリア、スイス、ベルギー・ブリュッセルなど、小松宮が訪れていない地域の写真も収録されている。後述するように、これらの国々には随行員を派遣しているので、写真はその随行員によって撮影されたと思われる。しかし、本写真帖の伝来については判然とせず、今後も調査を続ける必要がある(註8)。

二、小松宮彰仁親王の御外遊と各写真

二一 日本出国からイタリヤ到着

(明治三十五年四月十九日～五月二十六日、〈1〉～〈5〉)

明治三十五年四月十九日午前、新橋駅で伏見宮など各皇族方をはじめ、桂太郎首相など政府高官の見送りを受けて、小松宮一行は横浜駅へ向かった。随員は、三宮義胤式部長、中山孝麿宮中顧問官、長崎省吾調度局長、丹羽龍之助式部官、稲葉正繩式部官、土肥慶蔵東京帝国大学医科大学教授、黒澤源三郎元帥副官陸軍歩兵中佐、五十君弘太郎皇族附武官陸軍歩兵少佐、井上良智侍従武官海軍大佐、柴五郎陸軍砲兵中佐であった【参考】(註9)。

一行を乗せた御召船ケーニッヒ・アルベルト(Koenig Albert)号は、横浜港を出港し、途中、馬関海峡で小舟と衝突し座礁するアクシデントに遭うも、長崎、呉淞(ウースン)、香港を経て、五月四日、シンガポールに達した。〈3〉(図1)はシンガポール港に寄港中のケーニッヒ・アルベルト号の写真である。そして、同船は、コロンボ(現スリランカ民主主義共和国)を経て、二十日にスエズ運河に入った〈5〉(註10)。インド洋の航海は約ひと月にわたり、一行が上陸した香港、シンガポール、コロンボでは、現地高官および駐在日本人による盛大な歓待を受けたようであるが、該当する写真は含まれていない。

二二 イタリヤ (五月二十六日～六月一日、〈6〉～〈14〉)

五月二十六日、ナポリに上陸し、二十八日にローマに到着された。ナポリで一行はポンペイ遺跡など見学したようであるが本写真帖に該当写真は含まれず、街中を行進する兵士の隊列写真〈6〉のみ収録されている。他にローマの旧跡や街中の様子を写した〈7〉(図2)～〈14〉が含まれるが、「日誌」に一行が旧跡を訪れた記述がないことから、随行員のみで訪問したと推測される。

二三 フランス①(六月二日～十一日、〈15〉～〈16〉、〈37〉～〈41〉)

六月二日、イタリヤ・ヴェンティミリアを経由し、フランス・マルセイユに到着した。〈15〉(図4)～〈16〉は、ヴェンティミリア(伊)―マルセイユ(仏)間の海岸と思われる(註11)。現在「ブローニユの森」と呼ばれている公園を写した〈37〉～〈40〉は、本写真帖内の順番では、イギリス訪問後の位置づけであるが、「日誌」によると、イギリスに向かう前に撮影されたと推測される(註12)。後述するように、イギリス出国後、一行はフランス・パリを拠点にしたため、パリに計四回訪れており、写真の貼り間違えは時系列の錯誤から起こったものと推測される。

二四 イギリス(六月十二日～七月三日、〈18〉～〈36〉)

六月十二日、フランス・カレー港からドーバー海峡を渡り、イギリス・ドーバー港に到着した。午後五時二十分にロンドン・ヴィクトリア駅に到着、同駅にはイギリス王室より式部長官・ウイリアム・コルビル(William Colville)ら高官が正装して出迎えた。翌十三日には、エドワード七世に拝謁するため、小松宮は随行員とともに、正装の大礼服にてバッキンガム宮殿に参入された。そして十七日、小松宮は三宮式部長、柴中佐を従えて、皇弟カノート親王同妃両殿下に謁見された(註13)。

〈18〉～〈21〉は二十三日間におよぶロンドン滞在中に撮影されたと思われる、特に〈18〉(カラー口絵11)、および〈21〉(カラー口絵10)には、戴冠式を祝う緑綬が写されており、戴冠式を控えたロンドンの様子が窺える。〈22〉(図6)は、一行が滞在したクラリッジホテルが写っている。同ホテルは「倫敦市第一位」のホテルと名高く(註14)、戴冠式の本式日に入る六月二十三日には、同ホテル前に近衛兵が配置された(註15)。ところが、翌二十四日、エドワード七世が病気のため戴冠式の延期が発表された。イギリス側は「極メテ質素ニ挙行セラルベク該式場ニ外国特使ノ参同ハ期待セラレズ」と、各国の特使を引き留めない方針を示した(註16)。そのため、一行は予定を一週間ほど早め、七月三日にイギリスを出国した〈35〉～〈36〉(註17)。他に、ケンブリッジ大学〈24〉～〈26〉や水晶宮〈32〉～〈34〉の写真が含まれるが、いずれも「日誌」に記述がないため、随行員のみで訪問したと推測される。

二五 フランス②からスペイン(七月三日～十三日、〈42〉～〈47〉)

一行はパリに一週間ほど滞在し、七月十一日、スペインとの国境付近に位置するピアリッツを訪れた〈42〉。翌十二日、スペイン・サンセバスチャンに到着し、ミラマー

ル宮殿にてスペイン国王・アルフォンソ十三世 (Alfonso XIII) に謁見、午後には、宮殿付近の練兵場で、現地に駐屯する歩兵および砲兵の訓練を視察した(註18)。翌十三日にはスペイン国王同妃両陛下および内親王が、小松宮御滞在のホテルを訪れ(45)(カラー口絵13)、国王の案内で海が望める景勝地・ウリア山を訪問された(47)(カラー口絵14、註19)。(47)は、国王と王太后そして小松宮が御一緒に写されている唯一の写真である。

二一六 フランス③からベルギー(七月十四日～十八日、(69)～(72))

七月十四日、三度目となるパリに戻った一行は、十六日にパリ北駅を出発。ベルギー・オーステンデに至り、ベルギー国王・レオポルド二世 (Leopold II) に謁見した(註20)。しかし、該当の写真は含まれておらず、オーステンデの海辺の様子を写した(70)(図12)～(71)の二枚のみ収められている。

二一七 デンマーク・スウェーデン

(中山・稲葉・柴：七月十八日～二十九日、(77)～(87))

七月十八日、一行はオーステンデから、四度目となるパリに向かったが、随行員の内、中山宮中顧問官・稲葉式部官・柴中佐は、デンマーク、スウェーデンを経由し、サンクトペテルブルクで合流することになった。「日誌」には中山らの動向に関する記述がないため、その目的や詳しい経路は判然としない。デンマーク・コペンハーゲンで催された博覧会の様子(78)～(80)(図14、15、註21)やスウェーデンの風景写真(81)～(87)で構成されているが、いずれの写真からも中山らの様子を窺うことができない。

二一八 ベルギー・スイス・オーストリア

(土肥：七月十九日～二十五日、(48)～(74))

土肥は七月十九日に一行から離れ、ベルギー、スイス、オーストリア・ウィーンをまわり、二十五日にベルリンで合流した。二一七と同様に、その目的や経路は判然としない。(55)～(68)のスイスの写真は、土肥がオーストリアに向かう途中に撮影したものと思われる。また、(73)のベルギー・ブリュッセル王宮については、一行が訪れた形跡がないことから、土肥がオーストリアに向かう途中に立ち寄って撮影したものと推測される。

二一九 フランス④からドイツ(七月十八日～二十八日、(75)～(76))

中山・稲葉・柴と別れた一行は、パリからドイツ・ケルンを経て、二十三日、ベルリンに到着した(註22)。しかし、ヴィルヘルム二世 (Wilhelm II) は北海に巡幸中につき、ベルリンを不在にしていたため、皇帝との謁見は見送られた。結局、一行は約二週間の予定であったベルリン滞在を約一週間早めてロシアに向かった(註23)。そのため、ドイツ関係写真はベルリンの市街地を写した(75)(図13)～(76)二枚のみである。

二二〇 ロシア(七月二十八日～八月十七日、(88)～(140))

ロシア入りした一行は、ロシア政府により仕立てられた特別列車に乗車してシベリアを横断した(150)(図30)。同列車の客車は壮麗を極め、幅員広濶にして特設の寝台を備えた、最先端の設備を誇っていた(註24)。また、モスクワでは、一行の宿泊施設として、クレムリン宮殿が供されるなど、他国に比べて特別な接遇を受けた(95)～(97)(註25)。

七月二十九日、サンクトペテルブルクに到着した一行は、中山・稲葉・柴一行と合流し、翌三十日、ロシア皇帝・ニコライ二世に謁見した。本写真帖に冬宮殿と思われる写真が収録されているが(88)(図17)、実際の謁見場所は、冬宮殿ではなく、サンクトペテルブルクから西方へ四十km離れたペテルゴフ宮殿(夏宮殿)であったと推測される(註26)。

その後、八月一日に近衛第一連隊の野営に滞在するミハイル・アレクサンドロヴィチ大公を訪問(註27)、六日にモスクワ郊外で行われたコザック連隊の演習を視察(102)～(110)(図18～19)、十日、オムスクのシベリア陸軍幼年学校および同地の駐屯部隊を視察するなど(111)～(113)、軍事関係を視察する一行の様子が窺える。その一方で、シベリア方面に達すると、イルクーツク市内視察やバイカル湖を鉄道連絡船で横断する様子、バイカル湖東岸のブリヤート(現・ブリヤート共和国)の丸太建築視察(123)(カラー口絵19)、現地住民による歓迎の様子など、現地の産業や生活文化が窺える写真が顕著になる。

二二一 中国東北部・日本帰国(八月十七日～二十六日、(141)～(158))

八月十七日、東清鉄道の起点である満洲里駅に到着、当駅より東清鉄道で満洲を縦断し、旅順へ向かった。東清鉄道はロシアの管理下にあり、軍事的要素が強いため、撮影には制限があった(註28)。(141)(図26)～(154)のように、通常は撮影が

困難であったと推測される鉄道施設が写っており、貴重な作例と言えよう。この東清鉄道の特殊な事情のために、駅構内を写した写真のキャプションは、不明確な記載に留まっている。また、ロシアや清国の官憲および現地住民が歓迎する様子などを捉えた写真も収録されており、当時の中国東北部の複雑な政治的背景が窺える。

そして、二十六日、一行は遼東半島の旅順港から航路で神戸港に到着した(153)(図31)。(158)。一行は途中、京都や沼津に下車した後、三十日、新橋駅に到着、各皇族方はじめ政府高官の出迎えを受けた。そして、九月一日および二日、小松宮は宮中に参内し、明治天皇にイギリス国王の戴冠式延期および各国王室御訪問の状況を奏上された。

おわりに

以上、日記史料を中心に、『小松宮御渡欧写真 各国市街及風俗写真帖』の被写体特定とその撮影背景を考察してきた。本写真帖は小松宮一行の記録写真であるが、小松宮が訪れなかった国や地域では、他の随行員による撮影写真が収録された。本写真帖の編集者とその意図するところは、本稿では明確にできなかったが、旅の記録に付随して、結果的には様々な国の風景・風俗写真で構成されるものになった。その後、皇族の外遊に関する写真は公式の記録として重視され、プロカメラマンによる撮影が定着した。そして、紙焼きされた写真は皇族方の御手許用や官公庁などの記録用としてアルバムにまとめられるようになる。本写真帖は皇族の外遊を捉えた最初期のものであると同時に、アマチュア写真家による作品として特異かつ貴重な作例であると言えよう。

(当館学芸室研究員)

註

- (1) 松谷芙美「作品紹介 末松謙澄献上「英国各種写真帖」(『三の丸尚蔵館年報・紀要』第十六号、宮内庁三の丸尚蔵館、二〇〇九年)を参照。また書陵部図書課図書寮文庫が所蔵する外国写真の一例として、『(英国) 竜動名勝写真』(函架番号B・二二五〇)、《ヴェヒエンナ並ブタベスト写真》(函架番号B・二二五一)、《(伊太利国) 威内西・羅馬両府撮影画》(函架番号B・二二五二)、《(巴里府勝蹟之図)》(函架番号B・二二五三)、《(柏林府及ポツタームの勝景)》(函架番号B・二二五四)、《(ポンペイ古蹟の写真)》(函架番号B・二二五五)がある。いずれも伯爵亀井茲明が欧州留学中に収集した写真帖である。
- (2) 宮内庁編『明治天皇記』第十卷(吉川弘文館、一九七四年)一九三、二五七頁。
- (3) 小松宮は御渡欧に際し、旭日章四十四個、瑞宝章四十一個の計八十五個を持参された(刑

部芳則「明治時代の勳章外交儀礼」(『明治聖徳記念学会紀要』復刊第五十四号、明治聖徳記念学会、二〇一七年一月、一六二頁)。また、小松宮の旅行中の資格について、宮内省は一行の英国滞在中を除いて、公式な接遇を要しない「微行」とする旨、外務省に通牒した(三月十二日付田中光顕宮内大臣発小村寿太郎外相宛、式部職「外国差遣録 明治三十五年」宮内庁宮内公文書館所蔵、識別番号八八五七)。

(4) 一八三九年にフランスでダグレオタイプ(銀板写真)が発明され、旅行の記録として写真の役割が高まった。特に、鮮明な画像でリアリティをもたらしたダグレオタイプは、十九世紀における近代ツーリズムの形成過程で重要な役割を果たした(金子隆「異境へのまなざし」『東京都写真美術館編「旅する写真」旅行読売出版社、二〇〇九年』十、十一頁)。ちなみに日本では、世界各国の写真を収録する写真帖として、明治四十三年に田山宗堯が編集した『世界写真帖』が知られている。ただ、『世界写真帖』に収録された写真は、田山の撮影ではなく、田山が現地で買い求めた絵葉書で構成されている(国立歴史民俗博物館編『風景の記録—写真資料を考える』二〇一一年、七十四頁)。

(5) 編修局・編修委員会「彰仁親王年譜資料 卷八二 英皇戴冠式参列旅行日誌」(宮内庁宮内公文書館所蔵、識別番号七二二六四)。「彰仁親王年譜資料」は、明治三十六年(三十八年)に図書寮が編纂した簿冊の写本で、全八十二巻で構成される。本日誌は、表紙の左上に「彰仁親王年譜資料 卷八二」と墨書された題箋が貼付され、黒色罫紙に印刷の上、製本されており、本文および付録(観兵式出場諸兵員表、英国皇帝皇后両陛下晩餐席割)の計二二九頁および附属地図から成る。

(6) 「彰仁親王履歴」(宮内庁宮内公文書館所蔵、識別番号三四一三八)、堀口修「小松宮彰仁親王とシュタイン及びグナイスト講義」(『書陵部紀要』第五十四号、宮内庁書陵部、二〇〇二年)、明治十九年から翌二十年の御渡欧については、石井裕・梅田優歩「香川志保子の小松宮欧州巡行同行について」(『学習院大学史料館紀要』第二十八号、学習院大学史料館、二〇二二年三月)を参照。また、明治十九年から翌二十年の訪英時に比べ、明治三十五年の訪英では、第一回日英同盟の締結もあり、盛大に歓迎された(吉村道男「日英宮廷交流史の一面」『細谷千博ほか編『日英交流史 一六〇〇—二〇〇〇』第一巻、東京大学出版会、二〇〇〇年』三二四—三二五頁)。

(7) 日本では、明治二十年を境に、作業に技術や手間を要するガラス湿板からガラス乾板に置き換わり、その簡便な操作性のため、アマチュア写真家の台頭をもたらした(高橋則英「日本写真史における初期イギリス写真の意義」『東京都写真美術館編「写真の起源 英国」同館、二〇一九年、十七頁)」。随行員の稲葉正繩は華族によるアマチュア写真団体「華影会」の一員である。華影会については、岡塚章子「研究資料 明治期の写真団体と華族」(『美術研究』四二二号、東京文化財研究所文化財情報資料部、二〇一四年三月)、齋藤洋一「華族写真同人誌「華影」考」(『美術研究』四二二号、東京文化財研究所文化財情報資料部、二〇一四年二月)など参照。

(8) 明治三十五年十一月二十七日に「英国戴冠式写真帖」および「写真入雑誌」が、小松宮の随員で侍従武官の井上良智によって皇后に献上された記録が残る(明治三十五年十一月二十七日立案、「第一〇二二号 長崎調度局長外一名献品ニ付キ御挨拶シテ賜物ノ件」(皇

后宮職「明治三十五年 贈賜録」宮内庁宮内公文書館所蔵、識別番号六八六五五。「写真入雑誌」は、「エドワード七世皇帝戴冠式号（スフェヤー特別号）」（函架番号B九・五〇）、宮内庁書陵部図書課図書寮文庫所蔵、「エドワード七世皇帝戴冠式」（函架番号B九・五一、同右）、「英帝国の堡（解説共）」（函架番号B九・五二、同右）、「世界の王室」（函架番号B九・五三、同右）、「英国聯合艦隊会合写真（エドワード七世皇帝戴冠式祝賀）」（函架番号B九・五四、同右）計五冊を指すものと思われる。

(9) このほかに小松宮の専属随員として、西郷從徳陸軍歩兵少尉、大谷木長通膳部長、高橋勇治式部属、坂井孝小松宮家従も随行に命じられた。また、当初のメンバーに寺内正毅陸軍中将が入っていたが、四月二日、寺内が陸軍大臣へ就任したことに伴い、井上良智、柴五郎が代わって任命された。さらに、六月に福島安正参謀本部第二部長が新たに加わった（六月十九日にロンドンで合流）。

(10) 前掲（註5）、四十九頁。

(11) 前掲（註5）、六十五〜六十六頁。

(12) 前掲（註5）、七十九頁。

(13) 前掲（註5）、八十頁。

(14) 前掲（註5）、八十一頁。

(15) 前掲（註5）、九十二〜九十三頁。

(16) 明治三十五年七月八日（ロンドン）発同月十日（東京）着（電信）、林董駐英公使発小村外相宛（前掲（註3）、「外国差遣録」）。また延期された戴冠式は同年八月九日に行われ、日本からは駐英公使の林董が特派大使として参列した（明治三十五年八月十一日付小村外相発田中宮相宛、前掲（註3）、「外国差遣録」）。

(17) 前掲（註5）、一一五頁。

(18) 前掲（註5）、一三二頁。

(19) 前掲（註5）、一三五頁。

(20) 前掲（註5）、一三九頁。

(21) 「日本村」と呼ばれた博覧会では、職人芸や芸能を通じて、日本の風俗や生活ぶりが紹介された（倉田喜弘『海外公演事始』東京書籍、一九九四年、一二四〜一二五頁）。また、同博覧会では、のちにヨーロッパで人気を博したマダム花子が初出演した（根岸理子『マダム花子』第一章・第二章、論創社、二〇二二年、大野芳『マダムハナコ』第三章、求龍堂、二〇一八年）を参照。

(22) 前掲（註5）、一五二頁。

(23) 前掲（註5）、一五二〜一五三頁。

(24) 前掲（註5）、一五七頁。

(25) クレムリン宮殿の二階に小松宮の居室のほか、寝室・応接室・食堂・浴室などが設けられた（前掲（註5）、一六五頁）。

(26) サントペテルブルク郊外にある、いわゆる「夏離宮」は、エカテリーナ宮殿とペテルゴフ宮殿の総称であり、「日誌」には、「ペテルゴフ府」の「離宮」（「日誌」一五八〜一五九頁）、外務省記録には「ペテルゴフ」大離宮」とあることから、小松宮一行の謁見場所は

「ペテルゴフ宮殿」と判断した（明治三十五年八月十七日付、栗野慎一郎発小村寿太郎宛公信「彰仁親王殿下御来遊ノ件」、外務省記録6.4.26「小松宮彰仁親王殿下欧州各国御訪問一件」所収、外務省外交史料館所蔵）。

(27) 前掲（註5）、一六〇頁。

(28) 原田勝正『増補版 満鉄』（日本経済評論社、二〇〇七年）十六頁。

謝辞

執筆にあたり、長谷川怜氏（皇學館大学）、白石烈氏（宮内庁書陵部）にご教示を賜りました。記してお礼申し上げます。

表1 《小松宮御渡欧写真 各国市街及風俗写真帖》収録写真一覧

(凡例) 写真番号はリストを作成するにあたり振った番号である。
「英皇戴冠式参列旅行日誌」(宮内庁宮内公文書館所蔵)は「日誌」と記した。

写真番号	題箋の記載	撮影日	国名(地域)	法量 (cm)	面付け	備考
1	印度新嘉坡港入口ノ景	明治35 (1902) 年 5月4日	シンガポール	5.6×8.2	表1面	シンガポール港入港の様子。
2	同港ニ於テ総督代理ヨリ送ラレタル短艇手集合ノ図	5月4日	シンガポール	5.6×8.2	表1面	
3	同港碇泊ノ小松宮一行ノ便船北獨逸「ロイド」会社「キユニツヒ、アルベルト」号(図1)	5月4日	シンガポール	5.6×8.2	表1面	北ドイツロイド汽船(North German Lloyd)の10,694トンを有する大型汽船(「日誌」p.4)。
4	同港艇集合ノ図	5月4日	シンガポール	5.6×8.2	表1面	
5	「スエス」「カナル」通過ノ真景	5月21日	スエズ運河	5.6×8.2	表1面	
6	伊国「ナブル」港ニ於テ軍隊速歩進行ノ図	5月30日カ	イタリア	5.6×8.2	表1面	ナポリ。5月30日にローマにおいて行われた「急歩ノ分列式」の写真カ(「日誌」p.49)。
7	伊国羅馬府ノ全景 其ノ一(図2)	5月29日～6月1日カ	イタリア	5.6×8.2	表1面	ポポロ広場カ。
8	同 其ノ二	5月29日～6月1日カ	イタリア	5.6×8.1	表1面	
9	伊国羅馬府「サンペートル」寺院	5月29日～6月1日カ	イタリア	5.6×8.1	表2面	サン・ピエトロ大聖堂。
10	同府内噴水ノ図	5月29日～6月1日カ	イタリア	5.6×8.1	表2面	トレビの泉カ。
11	同府「コロシヤム」(猛獣争闘観覧場)ノ古跡(図3)	5月29日～6月1日カ	イタリア	5.6×8.1	表2面	
12	同府ノ「フホーラム」ノ旧跡	5月29日～6月1日カ	イタリア	5.6×8.1	表2面	
13	同府「カラカラ」浴場ノ古跡	5月29日～6月1日カ	イタリア	5.6×8.2	表2面	
14	同府ニ於ケル貧民ノ小児	5月29日～6月1日カ	イタリア	5.6×8.1	表2面	
15	「モナコ」国宮殿ノ遠景(図4)	6月2日カ	モナコ	5.6×8.2	表2面	フランス側からの撮影カ(「日誌」p.64～65)。
16	南佛国海岸ノ景	6月2日カ	フランス	5.6×8.1	表2面	
17	佛国巴里府劇場近傍ノ景(図5)	6月11日カ	フランス	5.6×17.3	表3面	パリ9区オペラ広場にあるガルニエ宮。シャルル・ガルニエ設計。6月11日午後8時、小松宮はエミール・ルーベ(Émile François Loubet)大統領の案内で同劇場を訪れオペラをご覧になっている(「日誌」p.79)。
18	英国倫敦府ノ真景 其ノ一(カラー口絵11)	6月下旬カ	英国	5.6×17.7	表3面	
19	同 其ノ二	6月下旬カ	英国	5.6×17.7	表3面	
20	同 其ノ三	6月下旬カ	英国	5.6×17.7	表3面	
21	英国倫敦府ノ真景 其ノ四 戴冠式ノ為ニ設立シタル緑門(カラー口絵10)	6月下旬カ	英国	5.6×17.6	表4面	「Canadian Arch」と呼ばれる戴冠式を祝うカナダ人による祝いの門。門の中央部に「CANADA BRITAIN'S GRANARY」および「GOD SAVE OUR KING & Queen」の表記が視認できる。
22	同府小松宮旅館ノ前面及衛兵(図6)	6月下旬カ	英国	10.6×6.2	表4面	クラリッジホテル。近衛兵の頭上に「CLARIDGES」の表記が確認できる。
23	同府公園内ニ在ル「ヴェクトリヤ」女帝ノ記念像	6月下旬カ	英国	6.2×10.6	表4面	ケンジントン宮殿(Kensington Palace)前に設置されている。
24	英国「ケンブリッジ」大学校ノ図 其ノ一	6月下旬カ	英国	5.6×17.7	表4面	
25	英国「ケンブリッジ」大学校ノ図 其ノ二	6月下旬カ	英国	5.6×17.7	表5面	
26	英国「ケンブリッジ」大学校ノ図 其ノ三	6月下旬カ	英国	5.6×17.5	表5面	
27	英国倫敦府外「ハムテンコート」離宮外ニ露営ノ印度兵視察ノ図 其ノ一(カラー口絵12)	6月28日	英国	8.5×24.6	表5面	ロンドン南西部にある旧宮殿・ハンプトン・コート宮殿(Hampton Court Palace)。同宮殿外苑に集結したインド兵部隊を視察する様子。
28	英国倫敦府外「ハムテンコート」離宮外ニ露営ノ印度兵視察ノ図 其ノ二	6月28日	英国	8.0×28.9	表6面	
29	英国倫敦府外「ハムテンコート」離宮外ニ露営ノ印度兵視察ノ図 其ノ三	6月28日	英国	7.8×25.8	表6面	
30	英国倫敦府外「ハムテンコート」離宮外ニ露営ノ印度兵視察ノ図 其ノ四	6月28日	英国	8.4×26.4	表6面	
31	英国倫敦府公園内ニ於テ殖民兵騎馬ヲ列スルノ図	7月1日～2日カ	英国	6.2×10.6	表7面	ホース・ガーズ(Horse Guards)で催された植民地兵の観兵式カ。7月1日は、南アフリカなど緒植民地兵、翌2日はインド兵が参加(2日は小松宮欠席、「日誌」p.107、113)。
32	同府水晶宮ニ於テ煙火ニ皇帝皇后両陛下ノ御肖像ヲ顯ハシタル真景	6月下旬カ	英国	6.2×10.6	表7面	
33	同府水晶宮ノ夜景	6月下旬カ	英国	6.2×10.6	表7面	
34	同府水晶宮滑舟ノ奇遊	6月下旬カ	英国	6.2×10.6	表7面	
35	英国「ドーバー」港出発ノ景 其ノ一	7月3日	英国	5.6×17.1	表7面	イギリスを出国する様子(「日誌」p.115)。
36	同 其ノ二	7月3日	英国	6.1×10.7	表7面	
37	佛国巴里府「ボーア・ド・ラ・ブロン」公園内池辺ノ景	6月11日	フランス	5.6×17.7	表8面	イギリスに向かう往路で訪問。パリ・16区の森林公園。現在、同公園はプロニュの森と呼ばれている。
38	同公園内競馬場ノ真景 其ノ一	6月11日	フランス	5.6×17.6	表8面	
39	同 其ノ二	6月11日	フランス	6.1×10.6	表8面	イギリスに向かう往路で訪問。パリロンシャン競馬場。6月11日に随行員のみで訪れている(「日誌」p.72)。
40	同 其ノ三	6月11日	フランス	6.1×10.6	表8面	
41	巴里府停車場内部ノ真景	7月カ	フランス	6.1×10.6	表8面	
42	佛国「ビヤリッチ」海浜ノ景	7月11日	フランス	6.2×10.6	表9面	ビヤリッチ。スペインとの国境付近に位置する。フランスにおける初期海水浴場の一つ(「日誌」p.128)。
43	西班牙国「サンセバスチャン」離宮沿岸ノ全景(図7)	7月12日	スペイン	6.2×10.6	表9面	ミラマール宮殿からラ・コンチャ海岸を撮影したものか(「日誌」p.132)。
44	西班牙国歩兵「サンセバスチャン」市進行ノ図	7月12日	スペイン	6.2×10.6	表9面	
45	同国皇帝並皇太后同市小松宮旅館ヲ訪問セラレタル時ノ外景(カラー口絵13)	7月13日	スペイン	6.2×10.6	表9面	ウリア山ご訪問前、小松宮が滞在するホテルにスペイン国王夫妻、皇姉内親王が迎えに訪れた際の様子(「日誌」p.135)。
46	同市練兵場ニ於テ皇帝閣兵ノ図	7月12日	スペイン	6.2×10.6	表9面	離宮傍の海浜の練兵場にて歩兵および砲兵の操練を視察された様子(「日誌」p.132)。
47	西班牙国「サンセバスチャン」市外「ウリヤ」山上ニ於テ皇帝並皇太后小松宮ト景色眺望セラレタルノ図(カラー口絵14)	7月13日	スペイン	6.1×10.5	表10面	小松宮が国王と共にウリア山の展望台から市街をご覧になっている様子(「日誌」p.134)。
48	奥国「ヴェナ」府市街ノ真景(図8)	7月下旬カ	オーストリア	6.1×10.6	表10面	土肥派遣。「ウィーン」はドイツ語読みに対し、「ヴェナ」は英語読み。
49	奥国「ヴェナ」府外「シヨンプルン」離宮ノ全図	7月下旬カ	オーストリア	8.5×28.9	表10面	土肥派遣。シェーンブルン宮殿。

写真番号	題箋の記載	撮影日	国名(地域)	法量 (cm)	面付け	備考
50	同離宮内ノ植物園ノ温室	7月下旬カ	オーストリア	6.2×10.4	表10面	土肥派遣。バルメンハウス(1882年設置)。ヨーロッパ最大級の温室。
51	同離宮内ノ噴水	7月下旬カ	オーストリア	6.2×10.6	表10面	土肥派遣。
52	同離宮ノ高丘ヨリ全市ヲ望ミタル景	7月下旬カ	オーストリア	8.4×27.1	表11面	土肥派遣。
53	同府「カーレンベルヒ」山ヨリ全市並ニ「ダニユーブ」大河ヲ望ミタル景	7月下旬カ	オーストリア	8.4×25.3	表11面	土肥派遣。「カーレンベルヒ」は、カーレンベルク山。「ダニユーブ」は、ドナウ川。
54	奥国「ヴェナ」市劇場ノ前面	7月下旬カ	オーストリア	5.6×17.7	表12面	土肥派遣。
55	瑞西国「ルセルン」市湖辺ノ真景 其ノ一	7月下旬カ	スイス	5.6×17.6	表12面	土肥派遣。ルツェルン。
56	瑞西国「ルセルン」市湖辺ノ真景 其ノ二	7月下旬カ	スイス	7.7×27.7	表12面	
57	瑞西国「ルセルン」市湖辺ノ真景 其ノ三	7月下旬カ	スイス	6.2×10.6	表12面	
58	瑞西国「ルセルン」市湖辺ノ真景 其ノ四	7月下旬カ	スイス	6.2×10.6	表12面	
59	瑞西国「ルセルン」市湖辺ノ真景 其ノ五	7月下旬カ	スイス	6.2×10.6	表13面	
60	瑞西国「ルセルン」市湖辺ノ真景 其ノ六	7月下旬カ	スイス	6.2×10.6	表13面	
61	瑞西国「ルセルン」市湖辺ノ真景 其ノ七	7月下旬カ	スイス	6.2×10.7	表13面	
62	同湖辺ニ在ル「リギ」山ニ登ル汽車ノ図(図9)	7月下旬カ	スイス	6.2×10.6	表13面	土肥派遣。フィツツナウ・リギ鉄道の「H1/2型1号機関車(1870年製造)カ。
63	「リギ」山上ニ在ル旅館(図10)	7月下旬カ	スイス	6.2×10.6	表13面	土肥派遣。リギ・グラムホテル(1875年完成)。かつて岩倉使節団や作家の斎藤茂吉が利用した。
64	同国著名ナル「サンベナド」種ノ犬	7月下旬カ	スイス	6.2×10.6	表13面	土肥派遣。セント・バーナード。
65	瑞西国「リギ」山上露店ノ図	7月下旬カ	スイス	10.6×6.1	表14面	土肥派遣。
66	瑞西国「アルプス」山間ノ真景 其ノ一	7月下旬カ	スイス	6.2×9.9	表14面	土肥派遣。
67	瑞西国「アルプス」山間ノ真景 其ノ二	7月下旬カ	スイス	6.2×9.9	表14面	土肥派遣。
68	瑞西国「アルプス」山間ノ真景 其ノ三	7月下旬カ	スイス	6.2×10.6	表14面	土肥派遣。
69	白耳義国通過ノ際人民群集ノ図(図11)	7月16日	ベルギー	6.1×10.6	表14面	
70	白耳義国「オスタンド」市海辺ニ於テ児童遊戯ノ図 其ノ一(図12)	7月16日	ベルギー	6.2×10.1	表15面	オーステンデ(Ostend)。後方の建物は、一行が宿泊したコンチネンタルホテルカ。小松宮が同海浜を散歩に訪れたのは、旅館で晩餐後の午後9時30分ごろで、長崎調度局長などが随従した(「日誌」p.141)。
71	白耳義国「オスタンド」市海辺ニ於テ児童遊戯ノ図 其ノ二	7月16日	ベルギー	5.6×17.6	表15面	
72	同市海水浴場ノ景	7月16日	ベルギー	5.6×17.6	表15面	
73	同国「ブルッセル」府宮城ノ図	7月下旬カ	ベルギー	5.6×17.6	表15面	土肥派遣。ブリュッセル王宮。
74	白耳義国「ブルッセル」府宮城近傍ノ市街	7月下旬カ	ベルギー	8.4×27.7	表16面	土肥派遣。
75	獨逸国伯林府普佛戦争凱旋塔(図13)	7月下旬カ	ドイツ	10.6×6.2	表16面	中山・稲葉・柴派遣。
76	獨逸国伯林府国会議事堂ノ図	7月下旬カ	ドイツ	8.1×26.0	表16面	中山・稲葉・柴派遣。
77	丁抹国「コーペンハーゲン」府ノ全図	7月下旬カ	デンマーク	6.2×10.5	表17面	中山・稲葉・柴派遣。
78	同府ニ於ケル日本村ノ図 其ノ一(図14)	7月下旬カ	デンマーク	6.2×10.6	表17面	中山・稲葉・柴派遣。
79	同府ニ於ケル日本村ノ図 其ノ二	7月下旬カ	デンマーク	6.1×10.6	表17面	中山・稲葉・柴派遣。
80	同府ニ於ケル日本村ノ図 其ノ三(図15)	7月下旬カ	デンマーク	6.2×10.6	表17面	中山・稲葉・柴派遣。
81	瑞典国「ストックホルム」府宮城ノ図	7月下旬カ	スウェーデン	5.6×17.8	表17面	中山・稲葉・柴派遣。中央の建物は、ストックホルム宮殿カ。
82	瑞典国「ストックホルム」市街ノ景 其ノ一	7月下旬カ	スウェーデン	6.2×10.6	裏18面	中山・稲葉・柴派遣。
83	瑞典国「ストックホルム」市街ノ景 其ノ二(図16)	7月下旬カ	スウェーデン	5.6×17.7	裏18面	中山・稲葉・柴派遣。左手の建物は、王立スウェーデン歌劇場。
84	瑞典国「ストックホルム」市街ノ景 其ノ三	7月下旬カ	スウェーデン	8.5×21.7	裏18面	中山・稲葉・柴派遣。右手前方にグスタフ3世の銅像、中央にスウェーデン国立美術館。
85	瑞典国「ストックホルム」市街ノ景 其ノ四	7月下旬カ	スウェーデン	6.2×10.6	裏18面	中山・稲葉・柴派遣。左手にスベンスカ・ハンデルスバンク。
86	瑞典国「ストックホルム」市街ノ景 其ノ五	7月下旬カ	スウェーデン	6.2×10.6	裏18面	中山・稲葉・柴派遣。
87	瑞典国日没ノ真景	7月下旬カ	スウェーデン	6.1×10.6	裏19面	中山・稲葉・柴派遣。
88	露国「セントペートルスブルク」宮城ノ図(図17)	7月29日～8月1日カ	ロシア	5.6×17.7	裏19面	冬宮殿カ。南広場から撮影された冬宮殿と思われるが、実際の謁見場所は、冬宮殿ではなく、サンクトペテルブルクから西方へ40km離れたペテルゴフ宮殿であった。同宮殿は小松宮一行が滞在したホテル「欧州ホテル」(現在のグランド・ホテル・ヨーロッパ)の近隣に位置する(「日誌」p.158)。
89	露国「セントペートルスブルク」府「イザック」寺院ノ図	7月29日～8月1日カ	ロシア	5.6×17.7	裏19面	
90	同府河口ニ於テ水雷艇進行ノ図	7月29日～8月1日カ	ロシア	5.6×17.7	裏19面	
91	同市雇馬車停車ノ図	7月29日～8月1日カ	ロシア	6.2×10.6	裏19面	
92	露国「セントペートルスブルク」市河辺ノ図	7月29日～8月1日カ	ロシア	6.2×10.6	裏20面	
93	同市河口水雷艇進行ノ図	7月29日～8月1日カ	ロシア	6.1×10.5	裏20面	
94	同国「クロナスタッド」砲台	7月29日～8月1日カ	ロシア	6.1×10.6	裏20面	
95	露国旧都「モスコウ」府「クリメリン」宮城外郭ノ図 其ノ一	8月5日～6日カ	ロシア	5.6×17.6	裏20面	
96	露国旧都「モスコウ」府「クリメリン」宮城外郭ノ図 其ノ二	8月5日～6日カ	ロシア	6.2×10.6	裏20面	
97	露国旧都「モスコウ」府「クリメリン」宮城外郭ノ図 其ノ三	8月5日～6日カ	ロシア	6.1×10.6	裏20面	
98	露国「モスコウ」府「クリメリン」宮城内ニ於ケル大鐘	8月5日～6日カ	ロシア	10.6×6.1	裏21面	
99	同市寺院外ノ群鳩ノ図	8月5日～6日カ	ロシア	6.1×10.6	裏21面	
100	同宮城内設置ノ分捕大砲並弾丸	8月5日～6日カ	ロシア	6.1×10.6	裏21面	
101	「モスコウ」府ノ全景	8月5日～6日カ	ロシア	8.5×29.4	裏21面	
102	「モスコウ」府外離宮並練兵場	8月6日	ロシア	8.5×24.6	裏22面	6日、モスクワ郊外のペトロフスキー公園で行われたコザック連隊の演習を視察(「日誌」p.165～166)。
103	同練兵場ニ於テ「コザック」騎兵練兵ノ図	8月6日	ロシア	8.5×25.0	裏22面	
104	一行練兵ヲ見ル図(図18)	8月6日	ロシア	5.6×17.7	裏22面	
105	「コザック」兵運動ノ図 其ノ一	8月6日	ロシア	5.6×17.7	裏23面	
106	「コザック」兵運動ノ図 其ノ二	8月6日	ロシア	6.2×10.6	裏23面	
107	「コザック」兵運動ノ図 其ノ三	8月6日	ロシア	6.2×10.6	裏23面	

写真番号	題箋の記載	撮影日	国名(地域)	法量 (cm)	面付け	備考
108	「コザック」兵運動ノ図 其ノ四	8月6日	ロシア	6.2×10.6	裏23面	
109	「コザック」兵運動ノ図 其ノ五(図19)	8月6日	ロシア	6.2×10.6	裏23面	「日誌」に「騎芸ヲ演シ歩車中馬背上ニ直立倒立等ノ動作ヲナセリ」とある(「日誌」p.166)。
110	「コザック」兵運動ノ図 其ノ六	8月6日	ロシア	6.2×10.6	裏23面	
111	「シベリヤ」オムスク市ニ於テ野営視察ノ図(カラー口絵15)	8月10日	ロシア	5.6×17.6	裏24面	オムスクの野営にてコザック騎兵の演習をご覧になる様子(「日誌」p.173)。
112	同野営ニ於ケル将校集会所へ歓迎ノ図 其ノ一	8月10日	ロシア	6.1×10.6	裏24面	将校集会所前で一行を歓迎する人々の様子(「日誌」p.173)。
113	同野営ニ於ケル将校集会所へ歓迎ノ図 其ノ二	8月10日	ロシア	6.1×10.6	裏24面	
114	田舎風車ノ図	8月ヵ	ロシアヵ	6.2×10.6	裏24面	
115	「シベリヤ」オビ河鉄橋ノ図	8月11日	ロシア	6.2×10.6	裏24面	オビ川の鉄橋を通過中に撮影カ。鉄橋は790メートルを有する(「日誌」p.175)。
116	「シベリヤ」イルクック市ノ全景	8月14日	ロシア	5.6×17.5	裏25面	イルクック。
117	同「バイカル」湖辺ノ図	8月15日	ロシア	6.2×10.5	裏25面	
118	同湖上乘船セントスルノ図(図20)	8月15日	ロシア	5.6×17.7	裏25面	バイカル駅の様子。同駅に連絡船の搭乗口が併設されていた。連絡船は砕氷船であり、4200トン、定員105人、客室のほか、浴室、食堂などを備えていた(「日誌」p.180)。
119	同湖ノ東岸「ミソアヤ」上陸地ノ景	8月15日	ロシア	8.5×26.6	裏25面	バイカル駅からバイカル湖を渡った対岸のムイソワヤ(ムイソフヴァヤ)駅のことカ。後にムイソワヤはバブシキンに改名。また、ムイソワヤは「ミソアヤ」または「ミソバヤ」と読むことがある。
120	同「イルクック」停車場プラットホームニ於テ一行荷物開閉ノ図(カラー口絵16)	8月14日	ロシア	6.1×10.6	裏26面	イルクック駅到着時の様子(「日誌」p.177)。
121	同市三頭馬車ノ図(カラー口絵17)	8月14日	ロシア	6.1×10.6	裏26面	イルクック駅から同市内に向かうトロイカカ(「日誌」p.178)。
122	沿道ニ於テ小松宮其他集合(カラー口絵18)	8月上旬ヵ	ロシア	6.1×10.6	裏26面	
123	小松宮露国特有ノ丸太建築ヲ実視セラル、図(カラー口絵19)	8月15日～16日ヵ	ロシア	6.1×10.6	裏26面	小松宮がブリヤートの丸太建築の現場を視察する様子。
124	沿道停車場ニ於テ歓迎ノ図 其ノ一	8月上旬ヵ	ロシア	6.2×10.6	裏26面	
125	沿道停車場ニ於テ歓迎ノ図 其ノ二	8月上旬ヵ	ロシア	6.2×10.6	裏26面	
126	沿道停車場ニ於テ飲用給水器ノ図	8月上旬ヵ	ロシア	6.1×10.6	裏27面	
127	沿道土民群集ノ図 其ノ一	8月15日ヵ	ロシア	6.2×10.5	裏27面	
128	沿道土民群集ノ図 其ノ二	8月上旬ヵ	ロシア	6.1×10.5	裏27面	
129	沿道土民群集ノ図 其ノ三	8月上旬ヵ	ロシア	6.2×10.6	裏27面	
130	沿道土民群集ノ図 其ノ四	8月上旬ヵ	ロシア	6.2×9.8	裏27面	
131	沿道ニ於テ写シタル「ブリヤット」人種(図21)	8月15日～16日ヵ	ロシア	6.1×10.6	裏27面	現在、バイカル湖の東側はブリヤート共和国に属している。
132	沿道土民群集ノ図 其ノ一	8月上旬ヵ	ロシア	6.2×10.6	裏28面	
133	沿道土民群集ノ図 其ノ二(図22)	8月11日	ロシア	10.6×6.2	裏28面	オビ駅における群衆の様子(「日誌」p.175)。
134	沿道鉄道線路ノ図	8月ヵ	ロシア	6.2×10.7	裏28面	
135	沿道穴居的ノ土民住所	8月17日～21日ヵ	ロシア	6.1×10.6	裏28面	満洲族の三角形穴居「万人炕」カ。
136	沿道護衛ノ鉄道隊「コザック」将校(図23)	8月ヵ	ロシア	10.6×6.2	裏28面	
137	沿道ノ一部落	8月ヵ	ロシア	6.2×10.6	裏29面	
138	車上ヨリ写シタル騎兵ノ進行	8月ヵ	ロシア	6.3×10.7	裏29面	
139	我カ特別列車ニ乗組ミタル汽車掛員ノ集合(図24)	8月ヵ	ロシア	6.2×10.6	裏29面	「日誌」によると、技師長1人、電気技手1人、同助手1人、看護手1人、機関手5人、車掌2人、会計および膳部長1人、配膳人4人、厨夫5人の計21人(「日誌」p.194)。
140	鉄道隊ノ一部(図25)	8月ヵ	ロシア	6.1×10.6	裏29面	
141	満州ノ一停車場ノ景(図26)	8月下旬ヵ	清国	6.2×10.6	裏29面	撮影地不明。中央後方に、「万人炕」と思われる満洲族の三角形穴居が写っている。
142	同所ニ於テ我カ一行及其他ノ集合(カラー口絵20)	8月下旬ヵ	清国	6.1×10.7	裏29面	〈141〉の駅で撮影カ。松方正義と思われる人物が写っている。8月1日、松方は欧米外遊から帰国する途中に、ロシアで小松宮一行と合流した(「欧米各国シベリア旅行日記」、明治35年8月1日条、「松方正義関係文書(寄託)」国立国会図書館蔵)。
143	満州ノ一停車場ニ於テ我カ一行其他ノ集合(カラー口絵21)	8月下旬ヵ	清国	6.1×10.6	裏30面	〈141〉と同じ建物が写っている。
144	満州ニ於テ我カ同胞並露清両国民歓迎ノ図(図27)	8月19日ヵ	清国	6.1×10.6	裏30面	チチハル駅を通過した際に撮影されたものカ。「日誌」に「黒龍江省都統衙門ノ文武大員清国兵勇及露兵整列シテ敬意ヲ表セリ」とある(「日誌」p.186)。
145	満州土民ノ図	8月17日～21日ヵ	清国	6.1×10.6	裏30面	
146	満州某停車場ニ於テ土民群集ノ図	8月17日～21日ヵ	清国	5.6×17.7	裏30面	
147	満州奉天附近ノ停車場ニ於テ同総督親兵歓迎ノ図(図28)	8月20日ヵ	清国	5.6×17.7	裏30面	寛城子駅では小松宮一行を長春府知事瑯熯が護衛兵を率いて歓迎した(「日誌」p.189)。
148	満州某停車場ノ図(図29)	8月21日	清国	5.6×17.0	裏31面	瓦房店駅カ(「日誌」p.190)。
149	同所停車場中小松宮三頭馬車ニテ御遊行ノ図	8月下旬ヵ	清国	5.6×17.6	裏31面	場所不明。〈141〉と同じ馬が写っている。
150	「シベリヤ」並満州ヲ通過セシ我カ一行ノ特別列車ノ全図(図30)	8月ヵ	清国	5.6×17.7	裏31面	機関車を先頭に、倉庫車(1号車)、厨房・温室兼理髪所・厨夫用室(2号車)、食堂・図書室(3号車)、寝台特別車(4号車)、寝台一等車(5号車)(「日誌」p.192～193)。
151	「シベリヤ」鉄道線路ノ図	8月ヵ	清国	5.6×17.7	裏32面	
152	満州大和尚山ノ図	8月21日ヵ	清国	5.6×17.3	裏32面	
153	北清旅順口ノ景(図31)	8月21日～22日ヵ	清国	5.6×17.6	裏32面	
154	北清旅順口外ノ景	8月21日～22日ヵ	清国	5.6×17.7	裏33面	
155	我軍艦八雲進航ノ図(図32)	8月22日～26日ヵ	日本	6.1×10.6	裏33面	巡洋艦「八雲」。「八雲」は「常磐」とともに派遣され、伊東義五郎常備艦隊司令長官が指揮した。〈155〉は「常磐」からの撮影と思われる。「八雲」には、小松宮、三宮、丹羽、井上、黒澤、五十君、土肥、「常磐」には、中山、長崎、柴、稲葉がそれぞれ分乗した(「日誌」p.191～192)。
156	神戸港外早暁ノ真景	8月26日	日本	6.2×10.6	裏33面	
157	神戸上陸荷物運搬ノ図	8月26日	日本	6.2×10.6	裏33面	
158	神戸市全景	8月26日	日本	6.2×10.5	裏33面	

本表は「英皇戴冠式参列旅行日誌」より作成した(編修局・編修委員会「彰仁親王年譜資料 巻82」宮内庁宮内公文書館蔵、識別番号72264)。

表2 小松宮彰仁親王御渡欧の行程表(明治35年(1902)4月19日～9月2日)

日付	内容	写真番号	日付	内容	写真番号
明治35年 (1902) 4月19日	午前8時30分：新橋駅出発。 同9時20分：横浜駅到着。 同10時15分：横浜港出港。		7月12日	午前9時20分：ピアリッツ駅出発。 午前11時30分：サンセバスチャン到着。 スペイン王・アルフォンソ十三世 (Alfonso XIII) に謁見。 午後4時頃：離宮傍の海浜の練兵場にて歩兵および砲兵の操練を視察。	<42>～<44> <46>
4月20日	午前10時10分：神戸港到着。 午後9時：神戸港出港。		7月13日	午後5時：ウリア山訪問。 午後5時40分：ウリア山の山頂に到着。	<45>、<47>
4月21日	午後2時：馬関海峡通過。		7月14日	午後10時35分：パリ駅到着。	
4月22日	午前3時40分：長崎港到着。 午後5時：長崎港出港。		7月16日	午前8時30分：パリ出発 (パリ北駅)。 ベルギー・オーステンデ到着。ベルギー王・レオポルド二世 (Leopold II) に謁見。	<69>～<72>
4月24日	午前11時40分：上海 (呉淞) 到着。		7月18日	【中山・稲葉・柴】中山孝麿宮中顧問官、柴五郎中佐、稲葉正繩式部官、デンマークへ。 【小松宮ほか】オーステンデ出発、パリへ。	<77>～<87>
4月26日	午後0時5分：上海 (呉淞) 出港。		7月19日	【土肥】土肥慶蔵博士、ブリュッセル、スイス經由オーストリアへ。	<48>～<68> <73>～<74>
4月28日	午後4時12分：香港到着。		7月21日	【小松宮】午後1時10分：パリ出発。 午後11時：ドイツ・ケルン到着。	
4月30日	午後0時10分：香港出港。		7月23日	【小松宮】午前10時20分：ケルン出発。 午後10時35分：ベルリン到着。	<75>～<76>
5月4日	午後2時19分：シンガポール寄港。	<1>～<4>	7月25日	【土肥】小松宮一行に合流。	
5月5日	午後3時30分：シンガポール出港。		7月28日	【小松宮ほか】午前9時：ベルリン出発。 午後9時50分：「タルヴェルチボローウラ」駅に到着。	
5月6日	午後7時10分：ペナン到着。		7月30日	【小松宮ほか】午前10時50分：サントペテルブルクに到着。 【中山・稲葉・柴】サントペテルブルクで小松宮一行と合流。 ロシア皇帝・ニコライ二世に謁見。	<88>～<94>
5月7日	午前8時10分：ペナン上陸。 午後2時40分：ペナン出港。		8月1日	サントペテルブルクのバルチースキー駅を出発。 午後3時50分：クラスノエセロ到着。欧米巡遊中の松方正義が合流。	
5月11日	午前9時20分：コロombo (現・セイロン) 到着。 午後8時10分：コロombo出港。		8月5日	午前9時：サントペテルブルク出発。 午後10時20分：モスクワ到着。	<95>～<101>
5月17日	午後5時50分：アデン港到着。 午後11時20分：アデン港出港。		8月6日	午前9時：モスクワ郊外のペトロフスキー公園にて、コサック連隊の演習を視察。 午後9時50分：モスクワ出発。	<102>～<110>
5月21日	午前6時20分：スエズ運河通過。	<5>	8月10日	午前11時50分：オムスク駅到着。同地駐屯の部隊を視察。	<111>～<113>
5月22日	午前8時20分：イスマイル到着。 午後7時30分：ポートサイド到着。		8月11日	午前11時過ぎ：オビ川の鉄橋通過、オビ駅到着。	<114>～<115> <133>、<134>
5月26日	午前5時：ナポリ上陸。 午後2時：市街散策。	<6>	8月14日	午前8時30分：イルクーツク到着。 午前10時頃：三頭馬車にてイルクーツク市内訪問。	<116> <120>～<121>
5月28日	午後3時10分：ナポリ駅出発。 午後8時40分：ローマ駅到着。		8月15日	午前7時：バイカル駅到着。 午前8時30分：砕氷船に乗船。バイカル湖横断。 午後1時20分：対岸のミソバヤ駅到着。	<117>～<119> <122>～<132>
5月31日	イタリア王・ヴィットーリオ・エマヌエーレ三世 (Vittorio Emanuele III) に謁見。	<7>～<14>	8月17日	午後6時：満洲里駅到着。	<135>～<146>
6月1日	午後9時：ローマ駅出発。		8月20日	午前8時：寛城子駅到着。	<147>
6月2日	午後7時10分：マルセイユ駅到着。	<15>～<16>	8月21日	午前2時：奉天駅到着。 午前8時：大石橋駅到着。 午前11時25分：熊岳城駅到着。 午後0時30分：瓦房店駅到着。 午後5時20分：旅順口仮駅到着。	<135>～<146> <148>～<155>
6月3日	午前1時19分：リヨン駅到着。 午前9時10分：パリ到着。		8月24日	午後5時：五島列島の傍を過ぎる。	
6月6日	午前：パンテオン、武器陳列所を見学。		8月26日	午前6時40分：神戸港に到着。 午前10時51分：大阪・梅田駅に到着。	<156>～<158>
6月9日	午後6時30分：エッフェル塔に登られる。		8月29日	終日、三島滞在。	
6月11日	午後：「ボア・ド・ラ・ブロン」公園 (現・ブローニュの森) 訪問。 午後8時：オペラ劇場訪問。	<17> <37>～<40>	8月30日	午後3時30分：新橋駅到着。	
6月12日	午前：パリ出発。 午後1時20分：カレー港到着。 午後1時45分：カレー港出港。 午後3時15分：イギリス・ドーバー港到着。 午後5時20分：ロンドン・ヴィクトリア駅到着。	<18>～<26> <32>～<34> <41>	9月1日	午前10時：参内。明治天皇に謁し、英国戴冠式延期の事由および各国王室ご訪問の状況を奏上。	
6月13日	正午ごろ、バックingham宮殿にて、エドワード七世 (Edward VII) に謁見。		9月2日	午前10時：参内。昨日に続き復命奏上。	
6月23日	戴冠式の本式日に入る。クラリッジズホテル前に近衛兵立つ。				
6月24日	戴冠式の延期決定。				
6月28日	午後3時：ロンドン郊外ハンプトンコート訪問。	<27>～<30>			
7月1日	午前10時：ホース・ガーズ (Horse Guards) で催された植民地兵の観兵式に参列。	<31>			
7月3日	午前10時：ヴィクトリア駅出発。 午後1時30分：ドーバー港出発。 午後2時30分：カレー港到着。	<35>～<36>			
7月11日	午後11時25分：フランス・ピアリッツ駅に到着。				

本表は「英皇戴冠式参列旅行日誌」より作成した(編修局・編修委員会「彰仁親王年譜資料 巻82」宮内庁宮内公文書館所蔵、識別番号72264)。

[] は筆者註。



図2 「伊国羅馬府ノ全景 其ノ一」 (5月29日~6月1日カ)



図1 「同港〔シンガポール港〕碇泊ノ小松宮一行ノ便船北獨逸
「ロイド」会社「キユニッヒ、アルベルト」号」
(明治35年(1902)5月4日)



図4 「〔モナコ〕国宮殿ノ遠景」 (6月2日カ)



図3 「同府〔ローマ〕「コロシヤム」(猛獸争闘観覧場)」
(5月29日~6月1日カ)



図5 「^{オペラ}佛国巴里府劇場近傍ノ景」 (6月11日カ)



図7 「西班牙国「サンセバスチャン」離宮沿岸ノ全景」(7月12日)



図6 「同府〔ロンドン〕
小松宮旅館ノ前面及衛兵」
(6月下旬カ)



図9 「同湖辺ニ在ル「リギ」山ニ登ル汽車ノ図」 (7月下旬カ)



図8 「奥国「ヴェナ」府市街ノ真景」 (7月下旬カ)



図11 「白耳義国通過ノ際人民群集ノ図」 (7月16日)



図10 「「リギ」山上ニ在ル旅館」 (7月下旬カ)



図13
「獨逸国伯林府普佛
戦争凱旋塔」
(7月下旬カ)



図12 「白耳義国「オスタン」市海辺ニ於テ児童遊戯ノ図
其ノ一」 (7月16日)

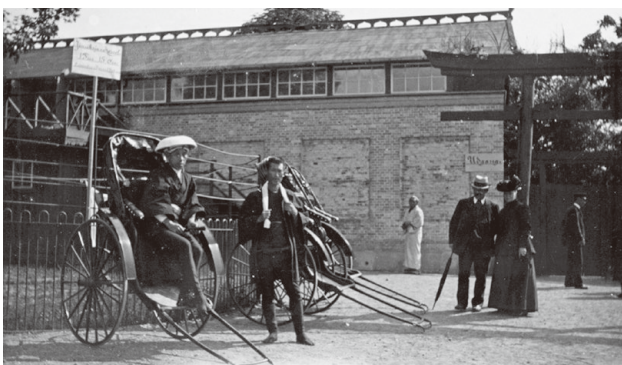


図15 「同府〔コペンハーゲン〕ニ於ケル日本村ノ図 其ノ三」
(7月下旬カ)



図14 「同府〔コペンハーゲン〕ニ於ケル日本村ノ図 其ノ一」
(7月下旬カ)



図16 「瑞典国「ストックホルム」市街ノ景 其ノ二」

(7月下旬カ)



図17 「露国「セントペートルスブルク」宮城ノ図」

(7月29日～8月1日カ)



図18 「一行練兵ヲ見ル図」

(8月6日)



図19 「「コザック」兵運動ノ図 其ノ五」

(8月6日)



図20 「同湖〔バイカル湖〕上乘船セントスルノ図」

(8月15日)



図22
「沿道土民群集ノ図
其ノ二」(8月11日)



図21 「沿道ニ於テ写シタル「ブリヤット」」(8月15日～16日カ)



図24 「我カ特別列車ニ乗組ミタル汽車掛員ノ集合」(8月カ)



図23
「沿道護衛ノ鉄道隊
「コザック」将校」(8月カ)



図26 「満州ノ一停車場ノ景」

(8月下旬カ)



図25 「鉄道隊ノ一部」

(8月カ)



図27 「満州ニ於テ我カ同胞並露清両国民歓迎ノ図」 (8月19日カ)



図28 「満州奉天附近ノ停車場ニ於テ同総督親兵歓迎ノ図」 (8月21日)

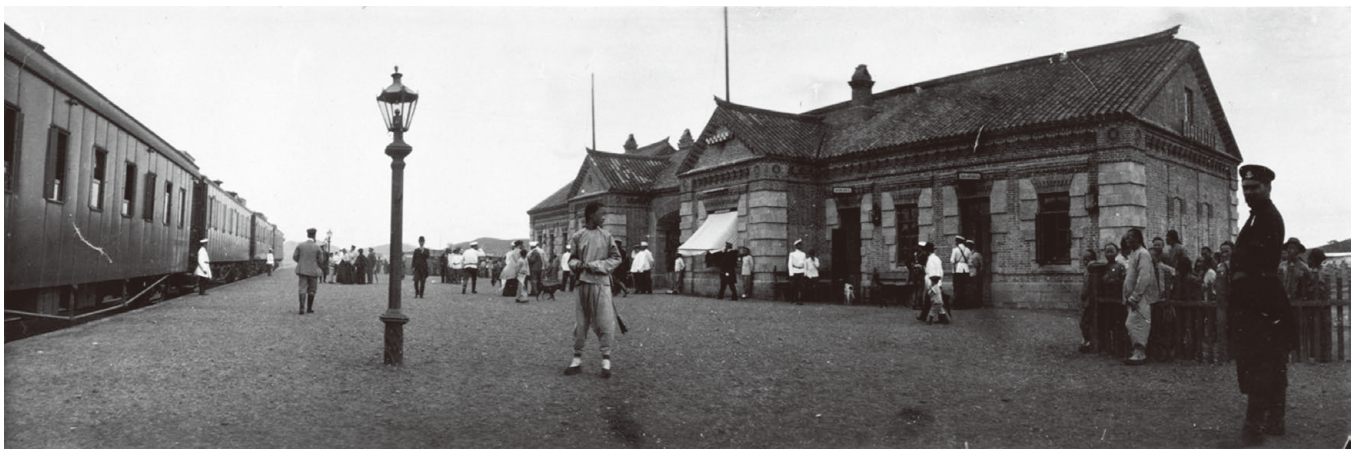


図29 「満州某停車場〔瓦房店駅カ〕ノ図」 (8月21日)



図30 「〔シベリヤ〕並満州ヲ通過セシ我カ一行ノ特別列車ノ全図」 (8月カ)



図31 「北清旅順口ノ景」

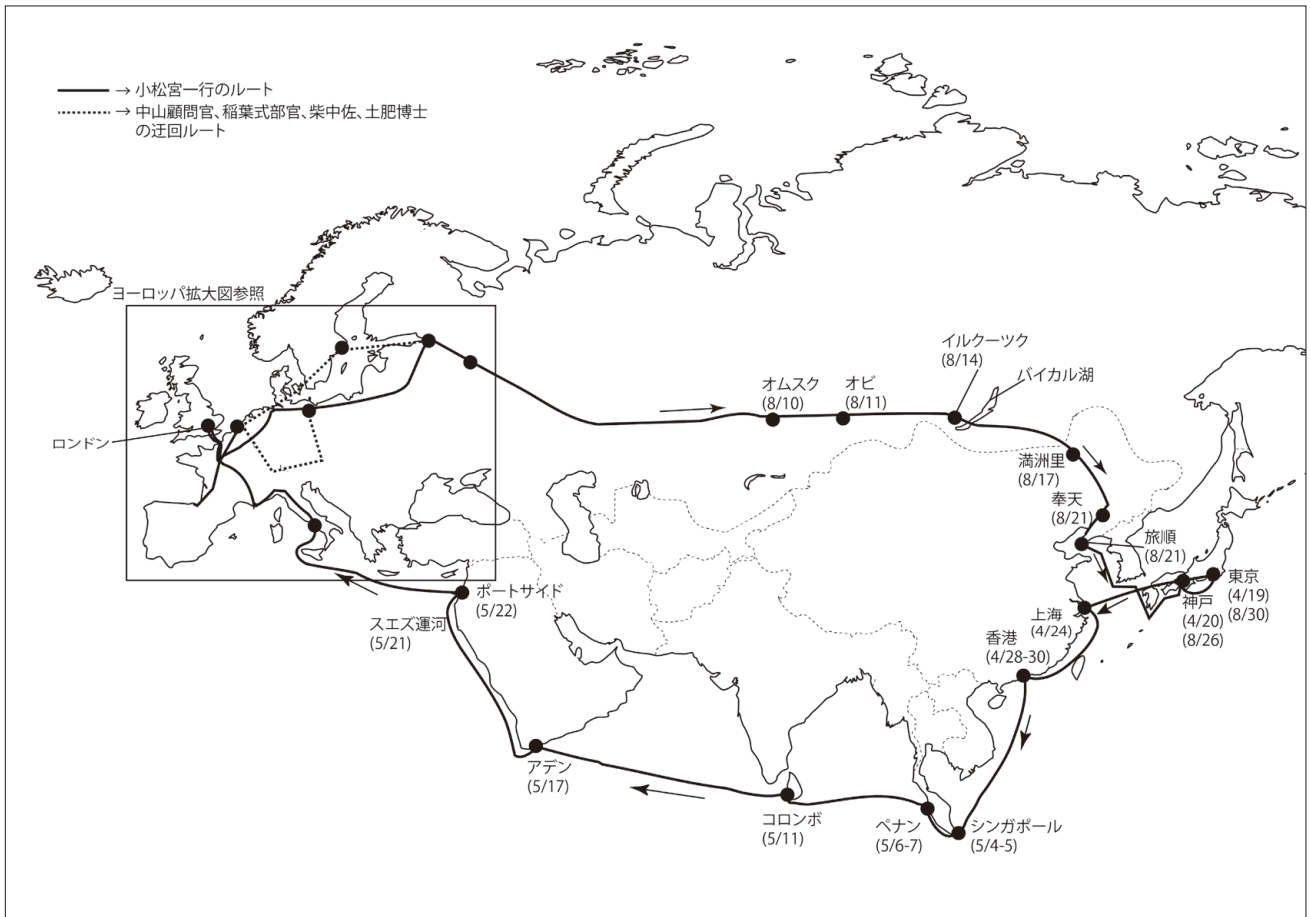
(8月21日～22日カ)



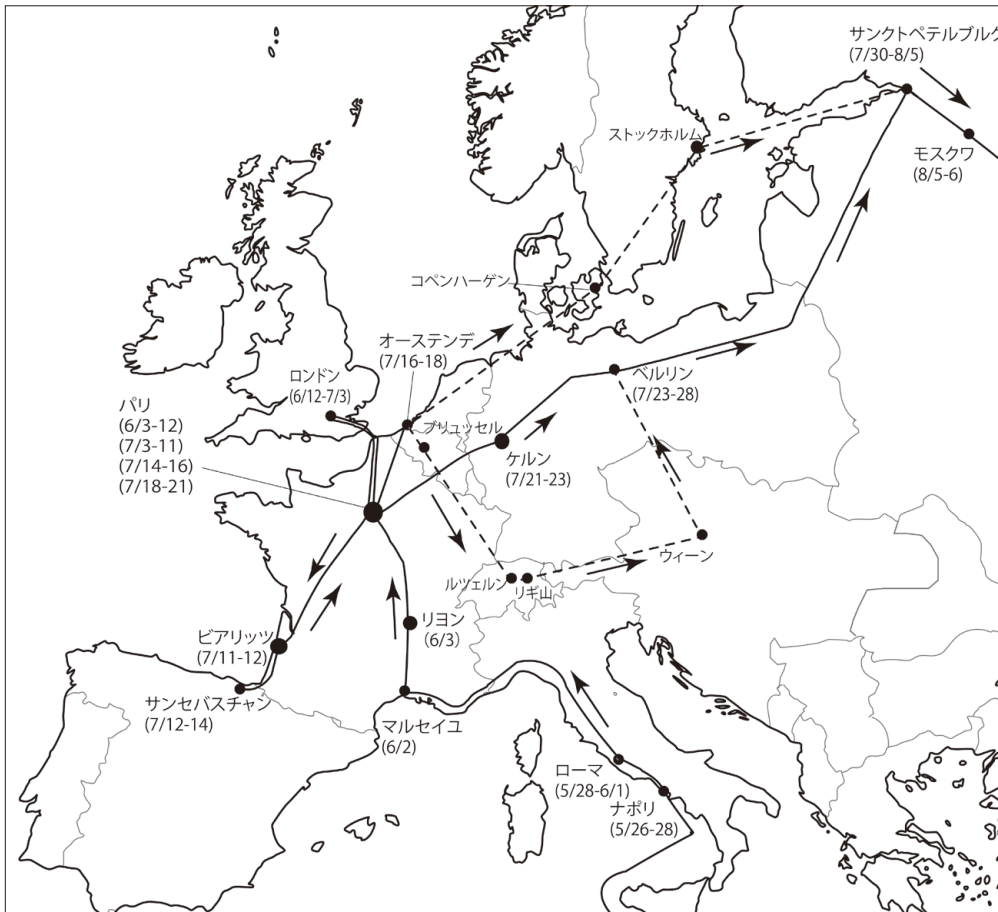
図32 「我軍艦八雲進航ノ図」

(8月22日～26日カ)

地図1 小松宮一行の行程



地図2 ヨーロッパ拡大図





10 「英国倫敦府ノ真景 其ノ四 戴冠式ノ為ニ設立シタル緑門」 (明治35年(1902)6月下旬カ)



11 「英国倫敦府ノ真景 其ノ一」 (6月下旬カ)



12 「英国倫敦府外「ハムテンコート」離宮外ニ露營ノ印度兵視察ノ図 其ノ一」 (6月28日)



14 「西班牙国「サンセバスチャン」市外「ウリヤ」山上ニ於テ皇帝並皇太后小松宮ト景色眺望セラルト図
中央左から3人目が小松宮カ。(7月13日)



13 「同国〔スペイン〕皇帝並皇太后同市小松宮旅館ヲ訪問セラレタル時ノ外景」 (7月13日)



15 「[シベリヤ]「オムスク」市ニ於テ野営視察ノ図」

(8月10日)



17 「同市〔イルクック〕^{トロイカー}三頭馬車ノ図」(8月14日)



16 「同「イルクック」停車場プラットホームニ於テ一行荷物開閉ノ図」

(8月14日)

かがんでいる人物は小松宮カ。



19 「小松宮露国特有ノ丸太建築ヲ実視セラル、図」
左から2人目が小松宮。(8月15日～16日カ)



18 「沿道ニ於テ小松宮其他集合」

(8月上旬カ)

右から2人目が小松宮、4人目が三宮義胤式部長カ。



21 「満州ノ一停車場ニ於テ我カ一行其他ノ集合」
(8月下旬カ)



20 「同所〔満州の一停車場〕ニ於テ我カ一行及其他ノ集合」
(8月下旬カ)

- ・三の丸尚蔵館年報・紀要中、作品名や作者、制作年などの表記は、年報・紀要発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館年報・紀要の著作権は宮内庁に属し、本ファイルを改変、再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館年報・紀要（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は、書籍と同様に出版を明記してください。また、図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は、宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお、図版を営利目的の販売品や広告、また個人的な目的等で使用することはできません。

三の丸尚蔵館年報・紀要

第28号

令和3年度

編集：東京都千代田区千代田1-1

宮内庁三の丸尚蔵館

発行：宮内庁

制作：札幌市中央区北3条東5丁目5番地91

株式会社アイワード

翻訳：山口敏之（株式会社イー・シー・プロ）

令和4年12月23日発行